

壇 20 24

為夢に生れ大入り足跡かな 6.3 1:55 am

地宮とまてとむろと巻き直す 2:13 am

割れ石指 ありりのことといふ下うに 14:47

信濃あす千曲に上る 22:25

女子も衣つて目の事なし 6.5 4:22 am

この季節は仰かぬといふ 6.5 8:35 am

子結あな

うらむの鳥 6.6 20:50

お復岸中 20:59 6.7 6:13 am

27ナとナ7

郵便受に こりと春のまうけり 6.7 3:37 am

毒舌青も白舌 6.7 3:58 am

母の日のさ細母と子人上 6.7 9:59 am 6.15 5:33 am 6.19 5:35 am

母の風をにかりいことありさうな 18:30

かほいこかほいさうとの 6.10 16:50

可愛いはほいさの関存なこよう

高田治の任事 P138

はあはあとローこの月を唄ふなう 6.10 16:58

紅白の梅あはちはと梅かな 6.11 5:15 am

地下鉄の甲シ

壇 20 24 a 6.14 5

先端 6.16 17:00
草の先に 6.15 5:35 am
花の付き下る 6.14 13:00

先に端
先に花に付く
6.15 4:10 am
6.16 17:02

ヒカに葉る
はさろわど炬燵
6.15 5:43 am
6.18 5:15 am

家あつ了了
6.16 16:59

she's leaving home

芽吹きたる
6.17 16:45

去年今年
6.17 16:50

船ふるるや
服子 籠

初云云や

三寸

籠まきん 19:40

6.18 5:18 am

2024・9・19【俳壇賞2024 プランA 全45】 選13句

12行3段組14ボ 2024年6月19日 21:06 <1 > 桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 自らに驚いてゐる蝶の羽化

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 母の日にふと道綱母のこと

壇 信濃から千曲に上る鮎若し

壇 子子も食つて目高の子の育つ

壇 はあああとローマの月を唄ふなり

壇 盂蘭盆会死者も元気でゐるらしき

壇 初雪や地下三寸に種あまた

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

2024・9・21【俳壇賞2024プランA全55】選12句

12行3段組14ポ
2024年6月21日 10:12 へ1 へ10

壇 郵便受にことりと春の来りけり

壇 自らに驚いてゐる蝶の羽化

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 母の日や小倉百人母ふたり

壇 信濃から千曲に上る鮎若し

壇 子子も食つて目高の子の育つ

壇 はああとローマの月を唄ふなり

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 初雪や地下三寸に種あまた

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 雪折の見事な枝を生けてある

2024・9・28 【俳壇賞2024 プランA 全67】 選16句

12行3段組14ポ 2024年6月28日 16:28 <1 > 桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 燃えるゴミに帽子入れけり初時雨

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 初雪や地下三寸に種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 春なれや短き花の命さへ 壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 母の日や小倉百人母ふたり

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 信濃から千曲に上る鮎若し

壇 子子も食つて目高の子の育つ

壇 生贄の如く浮んで夏の海

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 はあああとローマの月を唄ふなり

2024・9・29【俳壇賞2024プランA全82】選16句

12行3段組14ポ 2024年6月29日 08:14 へ1 へ10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 燃えるゴミの中に帽子が初時雨

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 信濃から千曲に上る若き鮎 壇 ふる雪の地中に眠る種あまた

壇 春なれや短き花の命さへ

壇 母の日や小倉百人母ふたり

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 子子も食つて目高の子の育つ

壇 仰向けに海に浮べば星月夜

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 はああとローマの月を唄ふなり

2024・9・29【俳壇賞2024プランA全95】選16句

12行3段組14ポ 2024年6月29日 14:55 <1 > 桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 燃えるゴミとなりし帽子や初時雨

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 信濃から千曲に上る若き鮎 壇 去年今年土中に眠る種あまた

壇 春なれや短き花の命さへ

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 仰向けに海に浮べば星月夜

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 はああとローマの月を唄ふなり

2024・6・29 【俳壇賞2024プランA 全102】 選15句

12行3段組14ポ 2024年6月29日 19:53 へ1 へ桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 燃えるゴミとなりし帽子も初時雨

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 信濃から千曲に上る若き鮎

壇 春なれや花の命のはかなさも

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 仰向けに海に浮べば星月夜

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 はああとローマの月を唄ふなり

2024・7・2【俳壇賞2024プランA 全120】 選19句

12行3段組14ポ 2024年7月2日 21:21 ^1 < 桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐるらしき

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 はああとローマの月を唄ふなり

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 キャベツぱりぱり青虫の齒型なり

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 燃えるゴミと決りし帽子初時雨

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 紅白はアラブにもありチューリップ 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 水曜の朝の娘のハンカチフ

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 仰向けに海に浮べば星月夜

2024・7・4【俳壇賞2024 プランA 全132】 選19句

12行3段組14ポ 2024年7月4日 11:41 <1 > 桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐるらしき

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 はあああとローマの月を唄ふなり

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 キャベツぱりぱり青虫の齒型なり

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 水曜の朝の娘のハンカチフ

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 あけまして梅雨より更に耐へ難し

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 仰向けに海に浮べば星月夜

2024・7・8【俳壇賞2024 プランA 全140】 選20句

12行3段組14ポ 2024年7月8日 23:09 ^1 <桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 祖父母父母而して我秋の風

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 はあああとローマの月を唄ひけり

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 キャベツぱりぱり青虫の齒型なり

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 水曜の朝の娘のハンカチフ 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 あけまして梅雨より更に耐へ難し

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

2024・7・10 【俳壇賞2024プランA 全16】 選19句

12行3段組14ポ 2024年7月10日 21:44 <1 > 桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 見えてゐて遠き星座やクリスマス

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 はああとローマの月を唄ひけり

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 背を裂いてまだ白色の油蟬 壇 火事跡の黒き柱に屋根もなし

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 百千の蟬の励ます夏期講座 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 昼寝して昼を愛づる手足かな

壇 これ見よと足長蜂の長き足 壇 孟蘭盆会死者も元気であるらしき

壇 駅前待人来たり春日傘 壇 この家は今年も紺の朝顔を

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 はああとローマの月を唄ふなり

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 針金を宙に広げて曼珠沙華

壇 打水もなし天竺へ続く道 壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 打水もなし天竺へ続く道 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 音読みと訓読みのあり暖かし 壇 背を裂いてまだ白色の油蟬 壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 昼寝して昼を愛づる手足かな 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐるらしき

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 はああとローマの月を唄ふなり

壇 これ見よと足長蜂の長き足 壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 待人に春の日傘のくるくると 壇 PCも書籍も四角けふの月

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 純粹の肉声として蚯蚓鳴く

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子

2024・8・9 【俳壇賞2024 A 全187句】 選23句

12行3段組14ポ 2024年8月6日 12.51 へ1 へ桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 昼寝して昼を愛づる手足かな

壇 音読みと訓読みのあり暖かし 壇 二三日予報通りの夕立なり

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐるらしき

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 はああとローマの月を唄ふなり

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 蚯蚓鳴け肉声ならば聞いてやろ

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 春なれや花の命のはかなさも 壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 背を裂いてまだ白色の油蟬 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

2024・8・9【俳壇賞2024 A 全198】 選26句

12行3段組14ポ 2024年8月6日 18:05 ^1 <桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す 壇 古傷の疼きを舐めつ冬眠す

壇 音読みと訓読みのあり暖かし 壇 昼寝して昼を愛づる手足かな 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 二三日予報通りの夕立なり

壇 啓蟄や畑の石を畦に投ぐ 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 はあああとローマの月を唄ふなり

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 キヤベツさくさく青虫の硬き顎

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 蚯蚓鳴け恋も愁ひも聞いてやろ

壇 春なれや花の命のはかなきも 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 背を裂いてまだ白色の油蟬 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 音読みと訓読みのあり暖かし 壇 昼寝して昼を愛づる手足かな

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 啓蟄や畑の石を畦に投げ 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 はあああとローマの月を唄ふなり

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 春なれや花の命のはかなきも 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 古傷を舐めて宥めて熊眠る

壇 背を割つてまだ白色の油蟬 壇 去年今年土の中なる種あまた

2024・∞・∞【俳壇賞2024 A 全212】 選24句

12行3段組14ポ 2024年8月8日 10:23 へ1 へ桐10

壇 郵便受にことりと春の来りけり 壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 音読みと訓読みのあり暖かし 壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 昼寝して昼を愛づる手足かな

壇 啓蟄や畑の石を畦に投げ 壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 春なれや花の命のはかなきも 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 時に疼く古傷を舐め熊眠る

壇 半袖の白タイトスカート 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 郵便受にことりと春の旅信かな 壇 背を割つてまだ白色の油蟬 壇 時に疼く古傷を舐め熊眠る

壇 音読みと訓読みのあり暖かし 壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す 壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 昼寝の畳を愛づる昼寝かな

壇 啓蟄や畑の中の石の数 壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ 壇 遠雷も蜩も消え月淡し

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 万緑の面影もなく山眠る

壇 春なれや花の命のはかなきも 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 袖なしの白タイトスカート 壇 黒 壇 白鳥の腸重く着水す

2024・∞・12【俳壇賞2024 A 全255】選28句

12行3段組14ポ 2024年8月12日 12.37 へ1 へ桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かな

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 時に疼く古傷を舐め熊眠る

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 老い先を照らす初日の目出度さよ

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ

壇 かなかなのカナカナと鳴くことも

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 キヤベツさくさく青虫の硬き顎

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 万緑の面影もなく山眠る

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 白鳥の腸重く着水す

2024・∞・14【俳壇賞2024 A 全26】選27句

12行3段組14ポ 2024年8月14日 06:46 <1 >桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かな

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 火事跡の黒き柱の無念かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 冬眠に昔の傷の疼くなり

2024・∞・15【俳壇賞2024 A 全269】選27句

12行3段組14ポ 2024年8月15日 06:13 へ1 へ桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かむ

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 孟蘭盆会死者も元気でゐればよし

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 冬眠に昔の傷の疼く時

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 刻まれて葱の長さのなくなりぬ

2024・∞・24【俳壇賞2024 A 全286】選29句

12行3段組14ポ 2024年8月24日 09:29 <1 >桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 冬眠に昔の傷の疼く夜

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 南方の夏に病死や餓死の兵

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 古い先を照らす如く初日の出

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気でゐて欲しい

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 秋の夜の茶に膨らんで螺子の錆

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 白鳥の腸重く着水す

2024・∞・24【俳壇賞2024 A 全295】選29句

12行3段組14ポ 2024年8月24日 16:21 へ1 へ桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 冬眠に昔の傷の疼く夜

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 南方の夏の神兵飢えて死す

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 古い先を照らす如く初日の出

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 頭よくなりさう目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気でゐて嬉し

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 秋の夜の焦茶に螺子の頭かな

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 白鳥の腸重く着水す

2024・∞・24【俳壇賞2024 A 全30】選句

12行3段組14ポ 2024年8月24日 22:56 <1 >桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 冬眠に昔の傷の疼く夜

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 神兵の夏、ジャングルに飢ゑ死にす

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 古い先を照らす如く初日の出

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 頭よくなりたし目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気で会ひに来る

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 秋の夜の螺子の頭の錆びついて

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 白鳥の腸重く着水す

2024・∞・25【俳壇賞2024 A 全308】選30句

12行3段組14ポ 2024年8月25日 07:10 へ1 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 冬眠に昔の傷の疼く夜

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死す

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 頭よくなりたし目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 信濃から千曲を目指す若き鮎

壇 屋上に稲妻を呼ぶ妻が立つ

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

2024・∞・26【俳壇賞2024 A 全320】選30句

12行3段組14ポ 2024年8月26日 06:31へ1 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 冬眠に昔の傷の疼く夜

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 頭よくなりたし目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 信濃から千曲へまはる若き鮎

壇 屋上に稲妻を呼ぶ男かな

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 万緑の面目もなく山眠る

壇 袖なしの白、タイトスカート黒

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

2024・∞・26【俳壇賞2024 A 全33】選30句

12行3段組14ポ 2024年8月26日 12.13へ1 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 背を割つてまだ白色の油蟬

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 冬眠に昔の傷の疼く夜

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 直に寝て昼を愛づる昼寝かな

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 頭よくなりたし目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 春を待つ郵便受の虚ろかな

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 屋上に稲妻を呼ぶ女の子

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 万緑もはかなかりしが山眠る

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

2024・∞・29【俳壇賞2024 A 全35】選30句

12行3段組14ポ 2024年8月29日 19:30 へ1 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 束の間の白無垢まとふ油蟬

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 去年今年土の中なる種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報通りの夕立あり

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 頭よくならむ目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 春を待つ郵便箱の虚ろかな

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 屋上に稲妻を呼ぶ女の子

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 万緑もはかなかりしよ山眠る

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 年越や土の中なる種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 二三日予報違へず夕立あり

壇 古い先を照らすが如く初日の出

壇 頭よくならむ目刺の苦き食ふ

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 春を待つ郵便箱の虚ろかな

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 食ふ食す食む食ぶ秋の混ぜ御飯

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 屋上に稲妻を呼ぶ女の子

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 袖なしの白、タイトスカート黒

壇 万緑もはかなかりしよ山眠る

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 年越や土の中なる種あまた

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 予報たがへず連日の大夕立

壇 古い先を照らす如く初日の出

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 寂しさに冬の芽を吹く薔薇かな

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 春を待つ郵便箱の虚ろかな

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 食ふ食す食む食ぶ秋の混ぜ御飯

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 屋上に稲妻を呼ぶ女の子

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 袖なしの白、タイトスカートの黒

壇 万緑も一炊の夢山眠る

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

2024・∞・31【俳壇賞2024 A 全292郵便箱】 選25句

12行3段組14ポ 2024年8月31日 17:49 <1 > 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 からつぼの郵便箱や春を待つ

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 予報たがはず連日の大夕立

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 食ふ食す食む食ぶ秋の混ぜ御飯

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 屋上に稲妻を呼ぶ女の子

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 みづからの影をつぶして熟柿落つ

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 万緑も一炊の夢山眠る

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 袖なしとタイトスカート白と黒

壇 年越や土の中なる種あまた

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬

壇 寂しさに冬の芽を吹く薔薇かな

2024・6・1【俳壇賞2024 A 全302郵便箱】 選25句

12行3段組14ポ 2024年9月1日 05:07 へ1 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 からつぽの郵便箱や春を待つ

壇 音読みと訓読みのあり暖かし

壇 予報たがはず連日の大夕立

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 充実の九月の昼と夜とかな

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 食ふ食す食む食ぶ秋の混ぜ御飯

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 屋上に稲妻を呼ぶ女の子

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 みづからの影をつぶしに熟柿落つ

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 万緑も一炊の夢山眠る

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 袖なしにタイトスカート白と黒

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬

壇 年越や土の中なる種あまた

2024・6・1【俳壇賞2024 A 全325郵便箱】 選28句

12行3段組14ポ 2024年9月1日 15:23 へ1 桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 蛞蝓を気味悪がるや蝸牛

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 音読みに生れし訓読み暖かし

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 予報たがはず連日の大夕立

壇 年越や土の中なる種あまた

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 充実の九月の昼と夜とかな

壇 からつばの郵便箱や春を待つ

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 食ふ食す食む食ぶ秋の混ぜ御飯

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 湖の水面に浮ぶ草の絮

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 屋上に稲妻好きの女の子

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 車庫長く電車も長し天の川

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 袖なしにタイトスカート白と黒

壇 みづからの影をつぶしに熟柿落つ

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬

壇 万緑も一炊の夢山眠る

2024・6・4【俳壇賞2024 プランA 全32句】 選28句

12行3段組14ポ 2024年9月4日 11:10 <1 >桐10

壇 春やまづ旅へいざなふふみ書かん

壇 蛞蝓を気味悪がるや蝸牛

壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 あたたかや暖といふ字を訓読みに

壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな

壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶

壇 充実の九月の昼と夜とかな

壇 年越や土の中なる種あまた

壇 啓蟄や畑の中の石の数

壇 食ふ食す食む食ぶ混ぜ御飯の秋

壇 からつばの郵便箱や春を待つ

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻

壇 湖の水面に浮ぶ草の絮

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す

壇 屋上に稲妻好きの女の子

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎

壇 車庫長く電車も長し天の川

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪

壇 松虫に松の緑のなかりけり

壇 春なれや花の命のはかなきも

壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 母の日の小倉百人母ふたり

壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 袖なしにタイトスカート白と黒

壇 みづからの影をつぶしに熟柿落つ

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬

壇 万緑も一炊の夢山眠る

2024・9・5【俳壇賞2024 プランA 全327】 選29句

12行3段組14ポ 2024年9月5日 10:22 へ1 へ桐10

壇 あたたかや暖といふ字を訓読みに 壇 蛞蝓を気味悪がるや蝸牛 壇 万緑も一炊の夢山眠る

壇 春やまづ旅へいぎなふふみ書かん 壇 重くれの山に滴る軽みかな 壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな

壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶 壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな 壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ

壇 啓蟄や畑の中の石の数 壇 食ふ食す食む食ぶ混ぜご飯の秋 壇 年越や土の中なる種あまた

壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻 壇 草市のこは笹なるや籠なるや 壇 からつぼの郵便箱や春を待つ

壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す 壇 屋上に稲妻好きの女の子

壇 信濃から千曲へ上る若き鮎 壇 車庫長く電車も長し天の川

壇 桜とは言はずもがなの花吹雪 壇 松虫に松の緑色なかりけり

壇 春なれや花の命のはかなきも 壇 夜の時間増量されし九月かな

壇 母の日の小倉百人母ふたり 壇 藁塚を縄文人はまだ知らず

壇 袖なしにタイトスカート白と黒 壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎

壇 束の間の白無垢をこそ油蟬 壇 みづからの影をつぶしに熟柿落つ

2024・9・13【俳壇賞2024 A 全205】選30句

12行3段組14ポ 2024年9月13日 22:11 へ1 へ桐10

壇 あたたかや暖といふ字を訓読みに	壇 蛞蝓を気味悪がるや蝸牛	壇 みづからの影をつぶしに熟柿落つ
壇 春やまづ旅へいぎなふふみ書かん	壇 重くれの山に滴る軽みかな	壇 万緑も一炊の夢山眠る
壇 自らに驚いてゐる羽化の蝶	壇 ぢかに寝て畳をめづる昼寝かな	壇 膝に来る猫も老いたる炬燵かな
壇 啓蟄や畑の中の石の数	壇 食ふ食す食む食ぶ混ぜご飯の秋	壇 刻まれて葱の長さでなくなりぬ
壇 芽吹きたるその芽の先に種の殻	壇 草市のこは笹なるや籠なるや	壇 年越や土の中なる種あまた
壇 蛇穴を出でてとぐろを巻き直す	壇 屋上に稲妻好きの女の子	壇 からつぼの郵便箱や春を待つ
壇 信濃から千曲へ上る若き鮎	壇 車庫長く電車も長し天の川	
壇 桜とは言はずもがなの花吹雪	壇 松虫に松の緑色なかりけり	
壇 春なれや花の命のはかなきも	壇 露けしや平成生れもう増えず	
壇 母の日の小倉百人母ふたり	壇 秋の夜の増量されてゐたりけり	
壇 袖なしにタイトスカート白と黒	壇 藁塚を縄文人はまだ知らず	
壇 束の間の白無垢をこそ油蟬	壇 キャベツさくさく青虫の硬き顎	